# ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2017年６月1日
6月号・第185号
奈良・人と自然の会
会長　鈴木 末一

**緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰・受賞記念撮影**

## Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることが出来ます

URL http://www.naranature.com


| | | | |
|---|---|---|---|
| 壮春力歩 | 1 | 5月・自然観察会・報告 | 11 |
| 総理大臣表彰授賞式・報告 | 2 | やさしい昆虫講座 | 12 |
| 多士済々 | 3 | ギャラリーならやま＆ならやま茶論 | 13 |
| Monthly Repo.ならやま | 4 | ならやまプロジェクト | 14 |
| 里山の今 | 5･6･7 | 行事案内part1 | 15 |
| 定例総会・報告 | 8 | 行事案内part2＆行事予告 | 16 |
| アースデー＆草刈機講習会・報告 | 9 | 幹事会報告・編集後記 | 17 |
| 天平祭・報告 | 10 | | |

# 壮春力歩

## 内閣総理大臣表彰を受賞

会長　鈴木末一

当会が緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受け、受賞式に出席したので、その模様をご報告し、この賞の重みを会員の皆様と共有したい。

受賞式は第１１回みどりの式典として行われた。その式典に出席するべく、４月２８日（金）正午前、東京駅１８番ホームに降り立った。ゴールデンウイークの直前ではあったが、人出はまださほどではなかった。山手線有楽町駅経由でメトロに乗り換え永田町へと向かう。

地上に出た瞬間、国会議事堂周辺を含めて、物々しい警備体制である。憲政記念館へのルートを確認し、記念館へと向かう。一歩一歩近づいていくにつれ、緊張感が高まってくる。会場正面受付で、環境省大臣官房秘書課の萩原辰男課長補佐が待ち受けてくれていた。厳重な持ち物チェックの後、ロビーで式典の概要についての説明を受け、式典会場へと案内される。

関係者が揃ったところで、予定時刻の少し前から、式典の流れの説明があり、立ち居振る舞いについてのリハーサルが繰り返されていく。演壇中央には両陛下が着席される椅子、両サイド向かって右側に４脚、左側に５脚の椅子が置かれている。どなたがお座りになるのかは、まだ判らない。

一通りのリハーサルが終わり、式典が始まるまでの間、東京芸術大学の４人の先生方による弦楽カルテット演奏が行われる。優しい、静かな調べが流れ、緊張感もややほぐれていく。

午後４時丁度、開式の辞があり、先ず両陛下が入場され、続いて三権の長、そして、内閣官房長官、最後に文部科学、農林水産、国土交通、環境各大臣が着席される。事前に色々と調べてはいたが、これ程の方々が臨席された式典は、今までにはなかったように思う。

私たち受賞者の席は、演壇に最も近い最前列であり、その中で、私は皇后陛下の前の席である。

国歌斉唱、安倍首相の祝辞を官房長官が代読、選考委員長から「みどりの学術賞」選考経過の発表に引き続き、官房長官から２人の大学教授の方々に「みどりの学術賞」の授与があり、その後、緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰が行われ、受賞者を代表して、長野県長野市の神戸直日（ごうどなおひ）氏に表彰状が授与される。

最後に、受賞者を代表して、丸田頼一千葉大学名誉教授から御礼のご挨拶があり、滞りなく式典は終了した。

記念写真のための会場準備が整った頃、前列中央に官房長官、お隣に大学教授、そしてその両サイドに三権の長と各大臣が着席される。後列に緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰受賞者が並び、記念写真の撮影が行われる。代表撮影である。

随行者などの関係者は、記念写真の撮影前にレセプション会場へと移動。その後、写真撮影を終えた受賞者全員が合流し、午後５時に、両陛下をお迎えしてレセプションが始まる。

山本農林水産大臣の発声で乾杯。お言葉を交わそうと両陛下の前に列ができる。萩原氏の計らいで、先に官房長官、三権の長、各大臣の方々にお礼のご挨拶を兼ねて当会のご説明をする。そして、小林環境事務次官と亀澤自然環境局長のご紹介を受け、受賞に対する深甚なる謝意を申し上げる。

その時、栁野国土交通省大臣官房審議官がお越しになり、祝福のお言葉をいただく。審議官には緑の都市賞受賞の時に随分お世話になっている。また、古都保存法シンポジウムの時、京都嵐山でお会いしたこともあり、当会のことについては、ご認識いただいている。

頃合いを見計らって、いよいよ天皇陛下の前へと進む。当会の活動内容をご説明すると、特にご関心を持たれたのは、「まほろばマツタケ」のことである。「一日も早く復活できるといいですね。頑張ってください」とのお言葉をいただいた。

午後６時、両陛下をお見送りした後も暫くレセプションは続いたが、ほどなく閉宴となる。

なにかと心遣いいただいた萩原課長補佐と栁野審議官に感謝の意を伝え、会場を後にした。

栄えある式典に参列の機会を与えて下さった会員の皆様に、衷心よりお礼申し上げます。

# 平成29年緑化推進運動功労者　内閣総理大臣表彰受賞

「みどりの式典」は、「みどりの日」についての国民の関心と理解を一層促進し、「みどり」についての造詣を深めるため、みどりの月間中に毎年開催され、みどりの学術賞の授与及び緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰が行われている。緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰は、緑化推進運動の実施について顕著な功績のあった個人又は団体を称えるもので、今年が３４回目となる。またみどりの式典は、今年は１１回目を迎えた。

奈良県関係の受賞歴を調べてみると、平成２１年に稲渕棚田ルネッサンス実行委員会（高市郡明日香村）が受賞されて以来である。
（鈴木末一）

▲　菅内閣官房長官と歓談（レセプション）

## この上ない名誉　阿部和生

第１１回みどりの式典に、鈴木会長、古川祐司、阿部和生の３名が、会を代表する形で出席した。事前に「両陛下がご臨席」と、聞いていたが、衆参両院議長、最高裁判所長官、内閣官房長官、管轄四大臣が列席され、格式の高い方々の祝福の中での授与式でした。国歌斉唱では思わず声を張り上げていた。官房長官の総理大臣祝辞は「みどりの力」を話されていたと思うが、すっかりその場の雰囲気に浸りきっていて内容を覚えていない。来賓各位が、正面に掲げられた国旗に拝礼されて着席される姿に、国家を背負い、動かしている方々の深い思いを感じた。その後のレセプションでは、テレビでしかお目に掛からない方々に、親しくお話させていただく機会を得て、この上ない名誉な時間を過ごすことができた。

両陛下も丁寧な対応を自然のなかでなされていて、レセプションでは時間オーバーがあったのではと思う。

平城遷都 1300 年記念の育樹祭とは、格段に違った大変な名誉を頂いたと痛感し、心引き締まる思いの一刻でした。会員の皆様の弛まぬ活動が評価され、素晴らしい結果に繋がったことに感謝です。

## 仲間と育んだ夢を胸に　古川祐司

薫風の中、国会議事堂周辺の緑がまぶしく美しい。春の叙勲に先駆けて開催された「みどりの式典」に栄えある受賞団体の一員として参列させていただいた。

創立 15 周年、ならやまの保全活動開始から 10 年の節目にこの上ない贈り物である。会の活動に参加する人数は当初の 5 倍以上、今なお増え続ける。その原動力は何だろう。

我々には、残された時間では追いきれない夢があり、ひたすら明日へ繋ごうと汗を流してきた同志の思いがある。今回の受賞にあたり、その意義を噛みしめ、「継続こそ力なり」をあらためて確信する。

厳粛な授賞式が終わると、レセプションは一転して和やかな雰囲気となる。平素、国の要人として拝見する顔とは打って変わり、「みどりの式典スマイル」の大臣方とで和やかな懇談となる。

天皇陛下から励ましのお言葉を賜り、各大臣方から労いと祝福を頂いて、我がボランティア人生最良の一日となった。

この機会を与えて下さった奈良・人と自然の会の皆様に心からお礼申し上げます。

多士済々

## ニホンミツバチ来たれ！

# 中川　徹さん

顧問　阿部　和生

**◇ニホンミツバチに興味を待たれたきっかけはどのようなことですか。**

「この会で話題になり、近くの菜園にも良い影響が出てくるのではないか、と思ったこと」

**◇これまでに興味を持たれたり調べたりされたことはありますか。**

「いやいや全く素人、無関心だったのですよ。図書館で調べたり、本を購入したり、近所の人と話したりは、この３月以降ですよ」

**※ お話を聞くと**随分知識が深く、以前からすごく関心をお持ちと思いました。“ならやま”でミツバチ再挑戦の話が出たとき、お任せでなく会員仲間でも興味のある人と一緒に養蜂できないかと考えていましたので、「ミツバチ飼育やっても良いよ」の声を聞き、大変力強く思い感激しました。・・・

**◇外国のミツバチの状況はどのようでしょうか。**

「ミツバチは、日本に限らず今世界中で急速な減少や突然死に見舞われ、農作物の収穫に大きな支障が生じていますので、その原因が探索されているところです。ヨーロッパではその生態の研究が早くから行われ、『尻振りダンス』にみられる仲間の意思伝達や『帰巣本能調査』などなど、多方面の研究が実施されてきました。だから急激な減少数に直面し、直ぐに調査が始まっています」

**◇ニホンミツバチの状況はいかがですか。**

「数年前から突然の蜂群消滅や大量死、突然死などが発生し、危機的状況にあります」

**◇ミツバチの養蜂についての基本的な考えをお聞かせください。**

「ミツバチ飼育による『採蜜』を目的にするのでなく、採蜜のときの「植物受粉」がねらいです。生態系の維持機能の強化をまずめざしたい。地域の植物の命のつなぎ役であり、その生息による生物多様性の招来ではないでしょうか」

**◇全く同感です。見通しは如何ですか。**

「健康で元気なニホンミツバチが１年間過ごすということは、その地域が生物に対し限りなく優しい生態系を持つ地域である事の証明にもなるのです。養蜂家の池田さんの指導•協力を得て成功させたい」

**◇この地域は、永年有機無農薬で里地が運営され、低農薬の地域ですね。**

「池田さんが設置された 11 基の巣箱に２個の分蜂群定着が観察されます。その後設置した巣箱には残念ながらまだ兆候がありません。来年は設置時期を早め、２月末から３月初め頃の設置が良いのではないか、と考えています」

**※ 古い巣箱を**解体し、丁寧に清掃し、最適な巣箱作りを今も継続中です。その視点は既に来年に向けられています。優れた特質を持つニホンミツバチの定着、増加を願っています。天敵ともいえるオオスズメバチが、今年も既に発生しています。直ぐ「駆除」に走るのですが、「ニホンミツバチにも防御があり、スズメバチも生態系の一員です」と、温かい眼差しの中川さんです。

その昔、超過密な仕事に没頭され、またそれが生き甲斐でもあったとき、病魔に襲われ大変な試練を受けられたそうです。九死に一生を得られ、生活様式を一変。近くの菜園活動や、この“ならやま”での活動が、今の自分には最適な環境と話されます。「生きる」命の大切さを実感された心情からの発信です。果樹への散水、巣箱の点検、蜜源の探索、来年度に向けた蜜源への工夫など、熱い情熱をお持ちです。明るく！楽しく！無理のない活動！を心がけて励んでいただきたいと思っています。

「マツタケ再生」と「ニホンミツバチ定着・やがては採蜜」どちらも楽しみな夢の企画が実現に走り出しています。楽しみですね！・・・

## Monthly Repo.　ならやま

八木　順一

### 4 月 27 日（木）　活動　　晴れ　　80 名＋2 名

参加者 80 名。暖かい日差しゆえか。また、昼食時には竹の子のてんぷらが。打ち合わせでは、体調管理に留意して欲しいことや今日から男性陣も賄いに参加・協力する体制がスタートしたこと等の連絡が行われる。里山Gは部分皆伐地区やサイト付近の倒木処理、エコ G はシイタケ収穫や野菜の種まき・土寄せ・施肥、そして稲の籾まき、景観Gは実りの森整備や竹の子採り、と精一杯の活動を行う。その他ビオ班は近大生が持参したタガイの池への放流やレンコン畑の整備、花班は山野草園の草取り、そしてパト G はミーティングの他に観察路の危険箇所にロープ張り、そして果樹クラブはコンニャク植え付け、とこちらも目いっぱいの活動を行う。

### 5 月 4 日（木）　活動　　晴れ　73 名＋1 名

総理大臣賞授賞式の報告が行われ、早速打ち合わせ後には広報の表紙を飾るべく、参加者全員で記念撮影。また月初めの協働作業として、先月に引き続き、松林の土掻きを行う。マツタケの収穫に向けて、頑張りたいものだ。里山Gは部分皆伐地区の伐倒木の整理、エコGは野菜の灌水や移植、景観Gはサイト付近の草刈りに掛かり切る。その他ビオ班は水生生物調査、花班は山野草園の草取り、そしてパトGは先週に引き続きパトロールのほか、観察路の危険箇所の標識付けに取り組む。本日から新入会員 1 名。

### 5 月 11（木）　活動　　晴れ　70 名＋4 名

夏のような日差しの中での活動。健康面への配慮も必要だ。臨時の幹事会や希少植物の観察会実施の件やこれからの実施予定の行事・イベントの連絡が打ち合わせで行われる。またスズメバチが出たことも報告され、注意を喚起する。里山Gはほだ木の定置準備、エコGはエンドウの収穫やサツマイモ等の植え付け、そして景観GはＢＣ付近の草刈りと忙しい一日になった。また、ビオ班は池付近の草刈り、花班は夏花の種まき、そしてパトGは希少植物説明会のほか階段作りにも取り組む。新しい年度の活動が本格的に始まった。

### 5 月 18 日（木）　活動　　晴れ　66 名＋5 名

日差しが強く、暑い。急遽サイトを変更し、来週からは緑陰広場での活動になる。そのために全員で引越し作業を行う。加えて、朝日親子環境教室や果樹園クラブ、また会計引継ぎ等々、いろいろな打ち合わせや話し合いがあちこちで行われる。目の回るような一日だ。近大生 4 名来訪。新しい布陣でビオに関わってくれる様だ。また。当会の取材のためのタウン誌の記者 1 名とシニア生も 2 名来訪。里山Gは漆の伐採等、エコGは野菜の収穫やネット張り、そして景観Gは草刈りと季節との競争になった。その他ビオ班は池周辺の草刈り、花班花畑の草取り、パトGは階段整理とこちらも忙しい一日になった。

里山の今

## 里山グループだより

**池山良武**

入会してからまだ半年余りの駆け出し者が、グループ報告を書く羽目になり、ピント外れの報告で先輩諸氏の誇りを承知で・・・。

里山の４、５、６月は、新緑が日に日に色濃く変化し躍動するときである。この時期、リーダーを始め経験豊富な先輩方は、その変化の速さに負けないように、今週、次週、次々週と作業計画を立てている。天候や員数が予定通りであれば、作業も滞ること無く、新たな構想も次々に打ち出される。里山はまるで生き物である。日々の成長変化は言うに及ばず、イレギュラーな事態も起こり即座に対応しなければならないこともある。それでもグループの、いやこの会のメンバー全てがそうなのだろうが、兎に角対応が早い。それによく動き働く。さすがに高度成長期を牽引してきた企業戦士 OB と、それを支えた女性達である。今一つ素晴しいことは、誰もが指示命令が無くても、それぞれが同じ方向に向かって動いていることである。これは恐らく現役時代に強い個性を持ちながらも、争い事を避け、実績で勝負し、自信を持った賢い大人の集まりであるからだろう。

里山グループの今の大仕事は、緑が濃くなるにつれて目立つようになった立ち枯れの大木の伐採とその整理である。そこでは、あたかも杣人（そまびと）のように出で立ちを整えたメンバーの男達が、チェーンソーの快音を響かせて、大木を木霊共々、乾いた響きと共に樹木の隙間をねらって地に沈める。その瞬間の響きは山仕事の醍醐味の一つでもある。手際よく玉切りにされ、更に根気よく縦割りにして薪棚に整然と積み上げられていく。まさに里山の風景そのものである。

息つく暇も無く、榾木（ほだぎ）の本伏せもある。また、ここ数年にわたり続いているナラ枯れで伐倒された倒木が未整理のままになっているところがあちこちにある。これらが内部の景観を多分に損なっている。完了の予定の立たない作業が当分続く里山グループである。

## エコファームだより

**鈴木経子**

### ◆夏野菜の植え付け本番

ならやまは爽やかな新緑にすっぽりと包み込まれました。と共に、エコファームの活動も忙しさを増し、週１回の活動だけでは追い着かず、月曜日を臨時活動日とすることになりました。

夏野菜の植え付けが始まり、ビニールハウスで大切に育てた苗を、すっかり準備の整った畑に移植していきます。苗作りは、温度管理と水やりが大事で、男性陣が毎日交替で頑張っていただきました。よく発育したもの、なかなか大きく育ってくれないものなどがあります。手塩に掛けて育てた苗なので、全てを植え付けました。

ナスと言っても、千両２号、トゲなし千両、ごちそう、庄屋大長など。唐辛子類では、ニューエース、ワンダーベル、伏見甘長、京みどり、甘とう美人、鷹の爪など。里芋では、越前大野、石川早生、最上川甚五右ヱ門など。それぞれ品種も多く、全ては覚えられません。この時期、園芸店を覗いてみると、種類の多さに驚きます。年々新種が増え、あれもこれも植えてみたくなります。

今年は、エコファームのスタッフも随分と増え、萱野さんの号令がかかると、皆さん手慣れた様子で植え付けされる方、資材を運ばれる方、水やりをされる方、手ほどきを受けつつ丁寧に植えられる方など、どんどんと作業が捗っていきます。リーダーの萱野さんの頭の中には、この場所にはこの種類を何本、あちらにはこの野菜を何本と、計画されており、さぞかし毎夜眠られないほど苦労していただいているのではと思います。

作業を終えて畑を眺めていると、大小の苗が同じように風に揺れています。これからは水やりなどの作業に追われますが、美味しい有機野菜を収穫できる喜びを思い、頑張りましょう。

## 景観グループだより

里山の今

川勝孝雄

### ◆健康で活動しよう

最近当会では超元気で活躍しておられる後期高齢者が、入院されることが起こっています。当会のメンバーは一般の方と比較すると、大変若々しく元気が良いと思います。体に自信があり、老化に対しても自信を持っておられる方が多いようです。

実は妻が三年前に肺がんに罹りました。肺は四分の一を切除しました。その後毎年検診を受けて経過観察中です。肺は元の大きさまで戻り元気に過ごしています。再発の可能性はゼロではありません。この手術の入院期間は１週間でした。

私の考え方として体の老化は防ぎようがない。夫婦で年一回ドック健診をして老化しているところを見つけてもらい、その時の症状、年齢、家族状況等を勘案して、治療方法は自分で判断したら良いと思っています。不治かつ末期になった場合、死期を延ばすだけの延命処置を断り、苦痛を和らげる処置はお願いします。回復不能な遷延性意識障害に陥った時は、生命維持処置を取りやめてください、と尊厳死の宣言書を持っています。

妻の肺がんは三年前に初期に見つけてもらい、その後一年の経過観察結果は、がんは成長して大きくなつていることを確認して手術しました。部位の検査結果は悪性でした。妻ががんであることがわかり当初は大変ショックでしたが、現在の医術の発達を再認識するとともに、今はどんな病気でも初期に見つけて処置すれば、容易に回復することを実感しました。また医療費は、医療の保険制度が整っており、約二百万円でしたが高額医療制度があり、自己負担金額は、一週間の入院で約２０万円でした。皆さん、夫婦で年一回健診を受けましょう。体に自信のある方で健診を受けていない人は　ぜひ受けてください。健康診断を受けて、安心してならやまで活動しましょう。

## パトロール班だより

小島武雄

### ◆パトロール repo

ならやま観察路は、ならやま里山林、ならやま自然の森、実りの森、佐保自然の森などを巡り、約５キロメートルの中に４コース設けてあります。自然観察をしながら歩くと、各コース共２時間ほどになります。ならやま里山林は人が整備して明るい日差しが入る森に、ならやま自然の森はそのままにできるだけ手を加えない森にしています。実りの森には果樹などを植え、佐保自然の森は公園になっています。

観察路には、樹木銘板を取り付け、見晴らし広場、野草保護観察、休憩ベンチの設置などの工夫をしています。ところが最近、自然の森にはカシナガの被害による立ち枯れ木が多くなり、その枯れ枝が昨年より多数落下してきており、あちこちで観察路が通行できなくなってきています。パトロール中に片付けをしていますが、次から次に落ちてきてキリがありません。太い枝もありとても危険です。また途中に引っかかり高いところで懸木状態になっている枝も多く、落下で観察路の通行中に事故があってはいけません。風の強い日には、観察路には入らないようにしており、ヘルメットは必需であります。やむなく、当面は危険防止テープを張り巡らし、進入禁止の看板も取り付けました。残念ながら、観察路周辺の枯れ木の伐採が終わり、安全が確認されるまでは、通行に支障のある状態となります。

立ち入り禁止 看板

落下した枝

## ならやま花だより

桜木晴代

野の花も里山の樹々も時を得たとばかりに目覚め、緑と可憐な野の花たちが私たちの目を楽しませてくれます。さわやかな季節到来です。

早春の里山林では、あちらこちらでコバノミツバツツジの鮮やかなピンクの花たちが出迎えてくれました。足元はスミレの花道。なんて素敵な光景だろう！と感歎！

里山林の新芽

佐保自然の森のコバノミツバツツジ

緑にはどんな色があるのかと、手元の「日本の色辞典」の緑のページを繰ってみました。たくさんの表現がありました。文字から色を想像してみてください。

**柳色　裏葉色　木賊色（とくさいろ）　蓬色　緑色　青緑　若竹色　青竹色　萌黄色　鶯色　鶸萌黄（ひわもえぎ）鶸（ひわ）色　千歳緑（ちとせみどり）　常盤色（ときわいろ）松葉色　若菜色　若苗色　若草色　苗色　麴塵（きくじん）青朽葉（あおくちば）　苔色　海松色（みるいろ）青磁色　緑青色（ろくしょういろ）　白緑色（びゃくろくいろ）　虫襖（むしあお）　深緑　抹茶色　若緑　山葵色（わさびいろ）**

日本人の自然観や、繊細で情緒的な感覚が表れていると感じます。

カタカナ表記の緑もありました。

**アップルグリーン　エメラルドグリーン　オリーブ　クロムグリーン　ターコイズグリーン　ティールグリーン　パロットグリーン　ピーグリーン　ピーコックグリーン　ピリジャン　マラカイトグリーン　モスグリーン**

6月の活動日に「日本の色辞典」を持参します。興味のある方はご覧ください。

## 里山の今

## 鳥シリーズ

小田久美子

**◆目には青葉**

**山ほととぎす 初鰹**　　**山口素堂**

皆さんの回りでもそろそろ鳴いている頃です。「鳴かぬなら殺してしまえホトトギス」と短気な織田信長さん。「鳴かぬなら鳴かしてみせようホトトギス」と人たらしの豊臣秀吉さん。「鳴かぬなら鳴くまで待とうホトトギス」と、忍耐強い徳川家康さん。戦国武将、三者三様の性格を表す歌として有名な鳥でもあります。

古代から人々に関心を持たれてきた鳥で、近代に入っても徳富蘆花の『**不如帰**』。自身が結核になったことで「**子規**」を俳号にした正岡子規。卯の花の咲く頃、南から渡って来て日本で子育てするこの夏鳥は「♪卯の花の匂う垣根に ホトトギス早も来鳴きて♪」と唱歌や、「山杜鵑（やまほととぎす） 初鰹（はつがつお）」と歌われ、いよいよ夏が来るよと知らせる鳥でもあります。昔から沢山の異名「**冥途鳥**」「**魂迎鳥**」などと気味悪い鳥とされつつも『万葉集』などでは「**呼子鳥**」「**時鳥**」「**容鳥**」「**蜀魂**」「**杜宇**」「**杜鵑**」を始め沢山の字で表してきました。先般講義の為『万葉集』の鳥をカウントした結果は、二桁台の他の鳥たちを抜いて168首に詠まれた断トツの人気鳥でした。

弓削の皇子が「古に 恋ふる鳥かも ゆずるはの 御井の上より 鳴き渡りゆく」と贈った歌に対し「古に 恋ふらむ鳥は ほととぎす けだしや鳴きし 我が恋ふるごと」と額田王が応えた歌はあまりにも有名です。この歌は、徳が無く帝位を追われた蜀の望帝(杜宇)が、ホトトギスになって「不如帰! 不如帰!」と鳴いて飛んで行ったという故事を二人が知っていて詠んだ歌です。

兄弟のどちらかが誤解のため相手を殺し、後悔で血を吐くほど鳴くのだという民話が全国各地に残っています。鳥の名前が先で、その胸の柄に似ているから「ホトトギス」という名前を貰った花がやはり同じ頃咲きます。

# 第１６回通常総会　報告

小島　武雄

平成２９年５月２０日（土）奈良市ボランティアインフォメーションセンターにおいて第１６回通常総会が開催された。

八木副会長の開会の辞に始まり、出席者４７名、委任状提出者９０名、計１３７名の参加者が確認され、会員総数１５２名の過半数を満たし本総会は成立した旨の宣言がなされた。

ついで鈴木会長より次の挨拶があった。

平成２８年度を振り返り、会創立１５周年の節目と、ならやまプロジェクト１０周年という記念事業を進めることができた。

また、昨年の秋に「あしたのなら表彰」「緑の都市賞•奨励賞」「生物多様性アクション大賞•入賞」のトリプル受賞、さらに本年、緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰という最高の受賞に輝き、天皇陛下からのお言葉もいただいた。会創設からの功労者である川井顧問に賞状と盾をお持ちし報告することができた。

本年度の花王の助成金については、活動の中身と焦点を絞って初めて受けることができた。今後の申請には、地域や次世代に貢献する活動の目に見える成果が不可欠である。その為にも今年から、新しい世代の方に大いに活躍してもらう態勢にしていきたい、議案書もこれを踏まえて作成した。また、会計面では助成金関係でも大変きびしい状況であることを踏まえながら、本来のボランティア活動の在り方というものをしっかりと見つめ直し、創意工夫のある運営をしていきたい。

議長選出の後、議案の審議に入り、

第１号議案
第１６期　事業報告および収支報告
会計監査報告の件

第２号議案
第１７期　事業計画（案）および予算（案）の件

第３号議案　会則の一部改定について
現行第 12 条を下記の通り改定する。
（顧問または参与）
第 12 条　この会に顧問または参与を置くことができる。
2. 顧問または参与は、幹事会の同意を得て会長が委嘱し、会長の諮問に応じるとともに、幹事会に出席し意見を述べることができる。
3. 顧問または参与は、幹事を兼ねる事ができない。　付則　平成２９年５月２０日改定

以上の議案審議に入り、各議案共審議の結果承認された。

一時、総会を中断、臨時幹事会を行い、新しく参与は古川祐司氏、会計の引き継ぎは、坂東久平氏、下村晴文氏が選任され報告された。

１０年表彰については、今年度から感謝状に替えて、記念植樹にすることとし、時期を見てならやまで植樹し銘板を取り付ける。今年度は水本遼眞さん、守口京子さん、田伏博子さん、板橋宏昌さんの４名の皆様方です。

以上にて本日の総会は終了し、５時からは場所を変え新年度のスタートにあたり、会員相互の親睦を深めるための懇親会を行い、多数の参加者を得た。

# 「アースデー２０１７ ｉｎなら」実施報告

桜木 晴代

「環境問題を自ら考え行動する人を広げていく」ことを目的に、ならコープは 1990 年以来「アースデー」を毎年開催し、今年 28 回目を迎えました。今年も趣旨に賛同し、平成 29 年 4 月 23 日(日)午前 10 時〜午後 2 時、出展参加いたしました。

出し物は「親子で楽しめる自然工作」として、モックン、カエルのストラップ、ジュズダマブレスレットの自然工作。スタッフとして１３名の会員が参加。

今年はこれまでになく快晴に恵まれ穏やかなイベント日和となりました。おかげで会場全体では約２３００名の来場があった由。

お客様第１号は親子３人連れ。開店と同時に弟さんはカエルのストラップ、お姉ちゃんはジュズダマブレスレットに、その後お客様は引っ切りなし。モックンを含めた自然工作３点セットの代金は１００円ポッキリ。その割安感と可愛さで子供達に大人気、時には順番待ちの行列が出来るほどの盛況ぶり。それでもスタッフは一人一人に丁寧に工作指導。それに応えて子ども達の目も真剣そのもの。しっかり頑張って仕上げた作品を見るどの子の目も輝いていました。仕上がった作品を大事そうに袋に入れ持ち帰る姿からも、自分で作った喜びが伝わってきます。

ステージでは、各種企画が催されていました。私達のブースでは客足は途切れず、目の廻るような忙しさが続きます。

午後２時丁度に販売ストップ。全部で６３セットを販売し大盛況のうちに終了しました。

# 「刈払機の安全講習会」実施報告

大田 和則

毎年行ってきた刈払機の安全講習会が、昨年は雨の為中止となりました。幸い今年の４月２０日は好天に恵まれ、また受講者数の心配を打ち消す４０名という大勢の方の参加で開催されました。

講師は奈良ＪＡの田中課長さん 。受講者の積極的な質問に丁寧に答えていただき、最後には草刈の実技指導を受けて無事終了しました。“田中課長さんありがとうございました。”

そして大勢の参加は講習への関心、刈払機の取り扱いへの関心の高さを感じました。

“刈払機倍ほど増やそうかな”

２サイクルエンジンは単純な仕組みで、普通に扱えばそんなに故障はしない。ただ大変な凶器であることは誰もが理解しているが、十分に気をつけて使用しなければ大事故に繋がる。幸い事故なく今日までできましたが、今一度基本的なことを確認して、安全第一で取り組みましょう。

◇５０：１の混合ガソリン使用、火気厳禁
◇エンジン始動は周りに無人を確認
◇安全防具の装着（ベルトなど４防具）
◇刈払機持ち運びは刈刃カバー装着
◇刈払機使用中５m以内は危険地域
＜１５m以上の間隔をもって行う＞
◇危険な場所、長時間（３０分以上）の作業は避け無理をしない。

“さ～４０名の免許皆伝、
楽しく草刈りしましょう”

# 平城京天平祭・春2017

## 子どもも大人も楽しめる『ものづくり広場』

辻本 信一

ゴールデンウィークを迎えるこの時期、奈良で恒例となった平城宮跡での平城京天平祭に、今年はならやま活動日の木曜日を除く5月3日(水)と5月5日(金)の2日間に限り、「たくさんの子どもたちや大人の方に、ものづくりの大切さ・楽しさを体験していただき、学び、思いっきり遊んでもらう」、というイベント趣旨に賛同し、『ものづくり広場』での出展に参加いたしました。

今回の『ものづくり広場』の場所は、第一次朝堂院前に移り、北に大極殿、東に若草山を望むお客様を迎えるのに絶好の場所となり、私たちもその一角に小間を構えました。

【絶好のイベント日和】

スタッフとして参加された方は、5月3日が13名、5日は14名で延べ27名。それ以外にもたくさんの会員の方々が、お客様としても私たちの小間を訪れてくれました。

出し物は、ドングリの殻斗、松ぼっくりの鱗片など自然のものを使った「クマのペンダント」、ならやまの竹を材料にした「ブンブンゴマ」、更に今では珍しくなったジュズダマの実を使った「ジュズダマブレスレット」の3点。お客様にはこれら3点全ての工作を楽しんでいただき、自分だけのオリジナル作品を持ち帰っていただきました。

【仲良く一列になって】

【天平衣装の子供達】

可愛い子供さんを中心に「お孫さんへのお土産に」と頑張るおばあちゃんやお友達、たくさんの方がそれぞれの思いで、「ものづくり」を楽しまれました。3日、5日ともお天気に恵まれイベント会場への客足も良く、会場全体は大盛況。

【客足も良く】

【せんとくん登場】

私たちの小間は、出し物の可愛さプラスお値段の割安感もあり連日の大入り。昼食時間に少し空きができた以外は、午前10時の開始からチケット販売終了の午後4時過ぎまで、お客様の席は常にふさがったまま。時にはスタッフ全員がお客様に席を譲り、立たざるを得ない状況となりました。

そんな努力の甲斐もあり、初日は115セット（クマのペンダント、ブンブンゴマ、ジュズダマブレスレット3点で1セット）、2日目は131セット、合計246セットが売れました。

初日は予想以上の客足に、お客様の誘導では多少の混乱を生じましたが、2日目にはそれに対応して机配置も変更、お客さんの流れも一段とスムーズになり、スタッフの工作指導の慣れ、手際の良さも相まって、売り上げ数字を更に押し上げました。「ブンブンゴマ」を仕上げた子どもたちは、お店の前で実技指導を受け、それがまた子どもたちの目にとまり、新たなお客様を呼び込むという好循環。

【ブンブンゴマ指導】

【お疲れ様でした】

こうして私たちの小間の周りは、終日子どもたちの満足そうな笑顔が溢れ、参加者一同も大満足。準備を含めイベントに参加いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

# 自然教室だより

## 5月・新緑のならやま自然観察会報告

辻本 信一

平成 29 年 5 月 16 日（火）野草観察のみならず自然観察には絶好のシーズンを迎え、この日は 17 名の方がならやまの観察会に参加して下さいました。題して「新緑のならやま自然観察会」。

私たちの活動の場である「ならやま」で身近な植物に親しもうと同好の士が集まり、楽しい観察会の始まりです。最初に訪れたのは普段車で何気なく通り過ぎてしまう２４号線東側の側道。そこではいきなりマンテマに似た薄紫色の花に遭遇。運良く近くに「シロバナマンテマ」もあり両者の比較ができました。　萼片にマンテマ特有の 10 本の線はないものの姿形はよく似ています。答えは「イヌコモチナデシコ」。参加者の一人が「マンテマ似の花」でスマホ検索。すぐに答えが分かりました。最近よく見かける帰化植物だということも判明しました。

**【イヌコモチナデシコ】**

そのすぐ横では垂れ下がった小穂が小判にも俵にも見える「コバンソウ」が一面に咲き誇っていました。同じイネ科のネズミムギは雄花から黄色い葯をのぞかせこれも今は盛りと咲いています。

更に大きく豆果を実らせたカラスノエンドウ。勿論、童心に返りみんなで笛を作り「鳴った」、「鳴らない」で一喜一憂。楽しく遊ばせていただきました。

**【四阿で午前中の振り返り】**

その後もサイクリングロード沿いに次々と野草を観察。昼食前には戻ってきたベースキャンプの四阿（あずまや）で午前中に観察した（下記の）植物の振り返りの時間を持ち、その特徴を紹介しあいました。

アレチギシギシ、コマツヨイグサ、クララ、コウゾリナ、セイヨウカラシナ、ニガナ、ヌカススキ、ノミノツヅリ、ノボロギク、ハルジオン等々

昼食後はサイクリングロード沿いを梅林から「彩りの森」へと進みました。意外とここも野草の宝庫、次々と珍しい植物に出会い、ジックリと観察する事ができました。

**【彩りの森を行く】**

昔はおかみさんたちが根っこを薬問屋に卸し、「へそくり」を作った「ヘソクリ」の別名のある「カラスビシャク」。こちらは「ウラシマソウ」に似た仏炎苞を持つテンナンショウの１種。花の開花はまだ先ですが、特徴的な三出葉がよく目立ちました。また、キンミズヒキの複葉は比較的大きな小葉の間に小さな小葉が入る特徴のある姿を私たちに披露してくれました。「ジャガイモの葉もこのような葉のつけ方をするのだ」と参加された倉田さんからお聞きしました。

**【キンミズヒキの複葉】**

午後に観察した植物：

タチイヌノフグリ、ツボミオオバコ、コナスビ、ガガイモ、レンゲ、オニノゲシ、ムラサキサギゴケ、トキワハゼ、カスマグサ、スズメノエンドウ、コメツブツメクサ、ヘビイチゴ、アケビ、ハハコグサ、チチコグサモドキ、アメリカフウロ、ヤブガラシ、オオジシバリ、ジシバリ、ヒメコウゾ、キキョウソウ、トウバナ等々

今回も色々な発見があり楽しく有意義な観察会となりました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。ご参加いただけなかった皆様も次回は是非お仲間入りください。

**【集合写真：ハイポーズ】**

# やさしい病害虫講座　２８
## 「ニューフェース登場」

木村　裕

2015年の秋、ハマユウの葉を主食としている**ハマオモトヨトウ**が、ならやまのベースキャンプで発生しました。私としては30年ほど前に紀州の白浜で初めてお目にかかったきりの虫でした。発生確認は、花担当の方から、見たことがない虫がいる、との情報によるものです。

黒白の縞模様のスーツを着た美人のヨトウムシさんが、タマスダレ集団の中に入り込み、細い葉を美味しそうにむしゃむしゃ食べていました。

まさかと目を疑いましたが、まぎれもなくハマオモトヨトウの幼虫でした。文献上ではタマスダレも食草の一つにはなっていましたが。

色鮮やかな幼虫

ハマオモトヨトウは南の暖かい地方にしか住んでいない蛾で、私も白浜で一度見ただけで、その後お目にかかったことはありませんでした。

同年の11月7日には、我が家の近くの公園でアマクリナムの葉上で数十匹の虫が寄り集まって“忘年会”を開いているのに気づきました。ちょっとした驚きでした。ついで1週間後には我が家の庭のアマクリナムの葉上でも見つかりました。

2016年の秋、再び我が家の庭で発生し、アマクリナムの葉をボロボロにしているのを発見、驚いて捕獲作戦1週間ほど続けて、大小取り混ぜて100匹ほどの虫を捕らえました。ほっと安心していると、今度はアマリリスの葉でも集まっているのに気づきました。その騒ぎが収まった頃に、タマスダレ、リコリス、ヒガンバナでも発生。かくてモグラ叩きの様相となりました。

ならやまでも再度リコリスで発生しているとのことでしたので、もう完全に腰を落ち着けたものと思います。

ヨトウムシといえば、皆さんご存知のように昼間は土の中でお眠りし、夜に“出勤”するのが習わしですが、このハマオモトヨトウは昼夜関係なく葉上にいるばかりでなく、穴掘りの技術も心得ているようで、厚い葉に穴を穿って内部に潜りこみ、葉潜りの状態で内部をぼりぼりと食い進んでいます。

葉の中に潜った幼虫

12月になっても、4 cmくらいの大きなものから1 cmくらいの小さなものまでおり、葉の中や地際の葉の隙間にも入り込んでいることから幼虫の状態でも冬越しが可能かも？

奈良地方は厳しい冬があるにも関わらず、なぜ突然に現れたのでしょう？　地球温暖化の影響かも知れませんが、私にとっては頭の痛い問題です。

タマスダレの葉上で宴会

# Gallery　ならやま

パステル画

■　有元 康人　「アケビとフキノトウ」

陶芸（焼き〆）

■　坂東 由紀子　「花 瓶」

★☆★…――――…★☆★

## ならやま茶論

### 「ほっと タイム」

竹本　雅昭

**コーヒー**：たいしょう！　大将！！

**やかん**：ん？　大将って・・・・・・わたしのことか、悪かねえな、ところで何の用だい。

**コーヒー**：ほれご覧なさいな、コップ片手にウロウロ、こっちをチロチロとさっきから気になって仕方ないんですよ。

**やかん**：そっか、よし分かった。だけどよ、沸いてもいねえのによ、シュンシュン音出すわけにいかねえ。これやあ、まあ一ぺんおっちゃんに掛け合ってみらあ。

**コンロ**：分ってるよ、みなまで言わずともバカじゃね～んだから。でもよ、いくらわしが頑張ったって限度ってものがあらあな。だからよ、元締めのボンベに気張ってもらうしかねえな。

**ボンベ**：そうせかされてもよ、腹一杯の時はスピード仕事出来るけどよ、今はもうペコペコだ。ありったけ頑張るからよ、もうちょっと辛抱してくんな。

**コーヒー**：砂糖さん、ミルクさん、スプーンさん用意ＯＫね。

**スプーン**：私ねいつも感じることあるのよ。ぬくもりある、姉さんや男衆さんの手から伝わってくる『甘い薫りを吸うと、疲れがスーとまわりの緑に溶けていくのよ』って、とってもうれしい・・・・。

**コーヒー**：それってインスタント・ユートピアね。　＾－＾　　～おわり～

# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

**活　動　予　定　日**

| | |
|---|---|
| 6月 | １（木）　８（木）　１５（木）<br>２２（木）２９（木） |
| 7月 | ６（木）１３（木）　２０（木）<br>２７（木） |

◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約20 haの里山林地（県有林）

◆ **集合：現地ベースキャンプ地・午前９時**

◆ **終了予定：午後３時**

◆アクセス

① ＪＲ平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分

② 近鉄奈良駅：バス１３番乗り場　115系統
８：２８発、高の原行き　（平日）

③ 近鉄高の原駅：バス１番乗り場　115系統
８：３６発ＪＲ奈良駅西口行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩７分

◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）

◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。

◆ 連絡先：八木 順一

## 里　山

6／1　**「協働作業の日」**
松林の土掻き（協働作業）
椎茸榾木の本伏せ（協働作業）
部分皆伐地の伐倒木整理／薪割り・材料の運搬

8　15
部分皆伐地の伐倒木整理
薪割り・材料の運搬／部分皆伐地区の下草刈り

22
部分皆伐地の伐倒木整理
薪割り・材料の運搬／部分皆伐地区の下草刈り
イベント用工作物作成準備（協働）

29 植樹地区の下草刈り／薪棚作成
イベント用工作物作成準備（協働）

## エコファーム

6／1 **「協働作業の日」**／田植え準備　水路整備
果樹：夏肥、枯枝切り・ネット

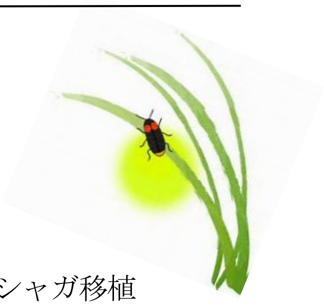
8　午前 佐保台小５田植え／午後 会員田植え
果樹：分蜂注意・観察

15 田植え予備日／葱（九条　下仁田）定植
玉葱　ニンニク畑耕耘／じゃがいも収穫
果樹：ブルーベリー他のマルチ

22 春の感謝祭（じゃがいも祭り）

29 じゃがいも畑耕耘
さつまいも、里芋除草　追肥

## 景　観



6／1　**「協働作業の日」**
整備：BC周辺の草刈り
ビオ：水生生物調査
花　：花菖蒲園草取り、班入シャガ移植
パト：観察路の落下枝片付け（危険木の伐採）

8
整備：実りの森草刈り
ビオ：池の整備・観察
花　：夏花の苗植え付け、草取り
パト：観察路の落下枝片付け（危険木の伐採）

15
整備：実りの森草刈り
ビオ：池の整備・観察
花　：花ナス苗、菊苗移植、草取り
パト：　丸太階段補修／山野草観察場所の整備

22
整備：佐保自然の森草刈り
ビオ：池の整備・観察
花　：山野草園草取り、柵作り
パト：丸太階段補修／山野草観察場所の整備

29
整備：佐保自然の森草刈り／BC周辺草刈り
ビオ：池の整備・観察
花　：矢車菊撤去 畑整地／マリーゴールド種蒔き
パト：丸太階段補修／手摺ロープなど補修

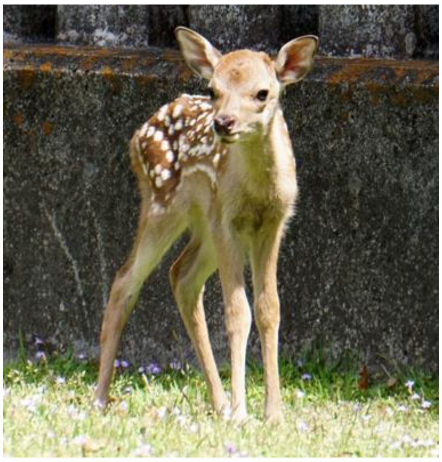
# 行事案内 part 1

**自然教室　６月の自然観察会**
**初夏の奈良公園　子鹿観察**

奈良公園といえば、「東大寺の大仏さん」。次に思い出されるのが 1957 年に国の天然記念物に指定された「奈良のシカ」。今回６月の自然観察会では、その奈良公園のシカを取り上げます。

今年は（この時期妊娠鹿を保護している）鹿苑にて５月７日（日）午前 11 時に第１号の子鹿誕生が確認され新聞紙上にも取り上げられました。

体重 3,500 グラム、頭胴長 66㎝、肩高 38㎝ の元気な男の赤ちゃんでした。



【今年の子鹿第１号】

この後６月中旬ぐらいまで子鹿の出産シーズンが続き、７月中頃には公園デビューとなります。

鹿苑では６月１日(木)から 30 日(金)の午前 11 時より午後２時まで、子鹿の特別公開が開催されます。入場料 300 円が必要となりますが、みんなで観察したいと思います。運が良ければ感動の出産場面に出会うことも・・

鹿サポーターズクラブメンバーの筆者が解説担当させていただきますので、皆さま奮ってご参加ください。

1. 日　時：６月 20 日（火）10 時～14 時
2. 集合場所：近鉄奈良駅 1F 行基菩薩立像前
3. 持参物：弁当、飲み物、あれば双眼鏡など
   （帽子、日傘など、暑さ対策もお忘れなく。）
4. 進め方：鹿苑に入場しジックリ子鹿を観察
   （その前後には奈良公園で植物観察実施。）
5. 担　当：自然教室チーム　辻本信一

## 育英小学校　校庭の自然観察会　実施予告並びにスタッフ募集

奈良市法蓮町の育英小学校より依頼を受け、６月 12 日(月)午前 11 時～12 時半の予定で校庭の自然観察会を実施します。本観察会は同校の１年生と２年生を対象に、生活科の授業の一環として実施するもので今年７年目を迎えます。

昨年は１年生 13 名、２年生 16 名の 29 名を対象に、スタッフ９名で対応しました。今年は児童数も若干増えますので、一般会員の皆様にもスタッフとして参加いただければと思います。子どもたちへの愛情と自然環境への意識の高い方であればどなたも適任です。特別な知識は必要ありません。是非スタッフとしてご参加ください。

1. 日　時：６月 12 日（月）
   午前 10 時集合、午後１時解散
2. 集合場所：育英小学校　奈良市法蓮町 1000
3. 実施内容：校庭の樹木・野草の観察、自然の材料を使った自然工作実施（事前の下見を行います。解説資料等は全てご用意します。）
4. 担　当：自然教室チーム　辻本・桜木・山本

## ◆ 佐保台小学校　放課後子ども教室　校庭の自然観察会実施予告並びにスタッフ募集

佐保台小学校放課後子ども教室より今年も依頼を受け、６月 21 日(水)午後２時 30 分～午後４時の予定で、校庭の自然観察会を実施します。本観察会は同校の小学１年生から６年生までの児童を対象に実施するもので、上記育英小学校の観察会同様、今年で７年目を迎える自然教室チーム伝統の行事です。昨年はこれまでで最高の 72 名の児童が参加しこちらも 17 名の陣容で対応しました。今年も児童の増加が見込まれますので一般会員の皆様にもスタッフとして参加いただきたく広く募集させていただきたいと思います。是非ご参加ください。

1. 日　時：６月 21 日（水）
   午後 13 時 30 分集合。午後 16 時 30 分解散
2. 集合場所：佐保台小学校
   奈良市佐保台 3-902-341
3. 実施内容その他：テーマ等詳細は変わりますが、内容的には上記育英小学校に同じです。

# 行事案内 part２

## ６月・月例研修会のご案内
## 高取城跡から土佐街道を歩く

高取城跡は、奈良県のマチュピチュといわれています。高取山（583.9m）山頂に築かれた典型的な山城です。南北朝以来、越智・本多・植村氏の居城として使われました。寛永７年（1640年）植村氏が入城するころには、要害堅固と美観をもつ近世的城郭が完成されました。今も残る壮大な石垣群に、日本三大山城の一つとしての当時の面影を見ることができます。

江戸時代には、山上の生活が不便なため、藩主や家臣の屋敷が街道筋に移され、土佐街道を中心にして城下町が形成されます。土佐という地名は地元では飛鳥時代に都造りのために駆り出された土佐の国の人々が国に帰ることができず、故郷を懐かしんでその名をつけたものが、今に伝わったといわれています。

記

＜日時＞　６月 13 日（火）

「奈良県北部の降水確率 60％以上なら中止」

＜集合＞　近鉄吉野線壺阪山駅前　９：３０

（駅でトイレを済ませておいて下さい。）

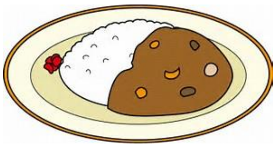
＜持ち物＞　弁当、飲み物、雨具、杖、ストック

＜世話人＞　下村晴文、冨井忠雄

＜行程＞　約７km（健脚向き）

壺阪山駅（バス９：４５）＝壺阪寺　→　五百羅漢　→　高取城跡　→　国見櫓　→　猿石　→　砂防公園　→　植村家長屋門（武家屋敷）→　夢創館　→　街の駅　→　子嶋寺　→　壺阪山駅

## 春の感謝祭（じゃがいも祭り）



６月 22 日（木）12 時～13 時予定

ならやまベースキャンプにおいて、エコファームの男子が中心となり、春の感謝祭（じゃがいも祭り）を行います。ならやまで収穫しました、じゃがいも（男爵、きたあかり、メークイン）、人参、玉葱、ニンニクなど新鮮な野菜たっぷりのカレーライスを、会員の皆様に提供いたします。

春の感謝を込めて、スタッフ一同頑張りますのでご期待ください。皆様の参加をお待ちしています。

※雨天中止の場合６月 29 日（木）

※カレー皿・スプーンをご持参ください。

2017. 3. 9　ジャガイモの植え付け

**********************************************

## ７月ならやま活動&行事予告

**＊ならやま活動**

７月６日　協働作業の日

**＊イベント**

７月１７日（祝）奈良県山の日・川の日イベント

山もり・てんこ森（フォレストパーク神野山）

７月２２日（土）夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！①

予備日（7 月 29 日＜土＞）

**＊歴史文化クラブ**

７月１１日（火）古代豪族・物部氏の実像に迫る

## 平成２９年・５月度幹事会報告

**日時：** ４月 25 日（火）14：00～17：00
**場所：** 奈良市中部公民館　4F 第２講座室
**出席者：** 18 名　欠席者：5 名

Ⅰ **会長挨拶**：4/21、24 で監査を終えた。緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰授賞式について。

Ⅱ **事務局・会計報告**
① 会員数 153 名（退会 5 名、入会 4 名：1 名減）
② 会計報告：次回行うこととなった。

**Ⅲ. 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項**

1. 平成 29 年度顧問・幹事役割分担、ならやまプロジェクト推進・サポート体制について。
   ・会計を暫定的に坂東幹事が担当。
   ・パトロール G 創設、その中にパトロール班・メンテナンス班（仮称）を設置。
   ・エコ G に蕎麦文化クラブ・果樹園クラブ組込。
2. ３カ月並びに当月スケジュールの検討と確認
   5/18 花王目録贈呈式を追加。
   7/17 山の日・川の日開催地神野山パークに変更。
   7/22 夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！①を追加。（予備日 7/29）
3. ならやまプロジェクト関係：配布資料説明
4. 月例研修会(報告と予告)：会報記事参照
5. 自然教室(報告と予告)：会報記事参照
   6 月以降の校庭観察会スタッフを広く募集。
6. 歴文研修（報告と予告）：会報記事参照
   ・5/30-31 越の国、15 周年一泊研修予告
7. 通常総会・10 年継続会員表彰について
   資料印刷準備完了。10 年表彰は記念植樹予定。
8. イベント（報告と予告）：会報記事参照
   ・4/23 アースデー報告
   ・「山もり・てんこ森」、7 月・8 月・奈良県協賛イベント、朝日親子自然環境教室：
   各イベント担当幹事決定

**Ⅳ. 広報関係**：ネイチャーなら 6 月号編集確認

次回 6 月度幹事会は、５月２３日中部公民館

## ◇ 申し合わせ ◇

＊通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日19時前のNHKの天気予報で、当該地域の午前の降水確率が60％以上の場合、中止とします。
＊通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】を振替活動日とします。
奈良県北部の降水確率は、奈良気象台17時発表。(http://www.jma.go.jp/jp/yoho/335.html)
＊臨時活動日を月曜日にする事があります。
（事前に担当役員から連絡します。）

## 編集後記

◆ **組織の信用**

昨年から数々の受賞が続き、この度は、緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受けました。

会にとっても、大変名誉なことでありますが、組織の信用はたった一つの不始末で地に落ちることがあり、社会的に責任を果たすべく、益々の精進が必要と感じます。

京都の老舗・１１代目当主のお話があり、感銘を受けました。

老舗の「し」が「止」や「死」にならんように、いつも新たな気持ちで「新店（しんみせ）」にならないかん。「しん」は「進」「慎」「心」などあるが、「辛」も大事で「辛抱」を忘れてはあかん。

信用はお金では買えません、一度失ったら簡単には戻らないものです。

（行々子）

**会報誌［ネイチャーなら］・第185号**
発行：奈良・人と自然の会
会長　鈴　木　末　一

URL ：http://www.naranature.com
◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

編集チーム代表：坂東久平